

## 【お知らせ】 診察室の移動について



診療体制の見直しにより、3月29日(月)から下記診療科や専門外来の診察室が移動いたします。大変ご迷惑をおかけいたしますが、お間違いのないようご注意ください。

診療科・専門外来	変更前	変更後
腎臓高血圧内科	2階⑥番受付	→2階②番受付
(一部4階で実施している) 総合内科	4階④番受付	→2階⑥番受付
東洋医学診療科	5階②番受付	→4階④番受付
リンパ浮腫センター	4階①番受付	→5階②番受付

## 院内サービス施設 営業時間変更のお知らせ

### ■デリショップ「デリカ」

自家製“食べるスープ”やケーキなどを販売している亀田総合病院Kタワー13階の「デリカ」では、当面の間、閉店時間を14:00とさせていただきます。

◇営業時間 11:00～14:00

◇定休日 日曜・祝日

### ■理美容室「ル・ペイザージュ」(Kタワー5階含む)

3/3(水)～3/5(金)の3日間、下記のとおり時間を短縮して営業させていただきます。

◇3月3日(水) 9:00～16:00で営業

◇3月4日(木)・5日(金) 9:00～15:00で営業

利用者の皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

## 地域連携小児夜間・休日診療について

当院では、地域の小児科の先生方と連携を取り、夜間や休日で小児の急病の場合に常時診療可能な体制を整えています。受診される際は、事前に代表番号(☎04-7092-2211)まで、電話連絡をお願いいたします。

<診療>・平日 夕方18:00～朝8:00  
・土曜日 昼12:00～夜24:00  
・日曜日・祝日 終日



## 自宅で過ごす患者さまの作品展

現在、亀田クリニック1階ロビーで、「自宅で過ごす患者さまの作品展」が開催中です。外来受診等で亀田クリニックにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。



■期間：前半展示 2/10(水)～3/8(月)  
後半展示 3/10(水)～4/12(月)  
※日曜・祝日休館

## bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

3月は東洋医学診療科部長の南澤潔医師が出演いたします。ぜひ、お聴きください。

## 「お薬引換番号」 スマホ等から確認できます

薬局周辺の「密」を避ける(人と人の距離を確保)対策として、スマートフォンやインターネットで、お薬引換番号を確認できるサービスを行っております。

なお、お薬の情報は休診日を除く毎日朝9時～夜8時の間、5分間隔で更新されますので、どうぞご活用ください。

### 【利用方法】

右のQRコードを読み込んでいただき、お薬引換番号表示サービスへアクセスしてください。インターネットからは下記アドレスへアクセスください。



<http://www.kameda.com/pr/medicine/>

### ■夕方や午前中の早い時間は待たずに引換できます

受診時に処方されたお薬は、薬局の対応時間内であればいつでも引換可能です。

### 《薬局の対応時間》

- ・(祝日除く)月～金曜日 8:00～18:30まで
- ・(祝日除く)土曜日 8:00～18:00まで

特に混雑を避けたいという方や、お薬の引換までの時間を有効に使いたいという方は、夕方や翌日午前の早い時間帯でお薬を引換いただくと、比較的スムーズに受け取ることができます。



### 第1話 「足の痛みねんざ外来」の紹介と自己紹介

こんにちは、スポーツ医学科医師のはっとりそういち服部惣一です。「足の痛みねんざ外来」を担当しております。6回シリーズであるこのコラムで治療内容について説明させていただきたいと思ひます。



今回のコラムでは「足の痛みねんざ外来」を立ち上げた経緯ならびに自己紹介をさせていただきます。私は2020年9月までの約1年間アメリカのペンシルベニア州にあるピッツバーグへ留学する機会をいただきました。ピッツバーグでは超音波診断装置(エコー)を使った最小侵襲手術(手術のキズがほとんど残らない手術)を開発してきました。捻挫の後に足の痛みが続く方や捻挫を繰り返す方、アキレス腱や足の裏が痛くなる(特に朝や運動後に)方を対象とするこの治療を、日本の患者さまにも是非受けていただきたい「足の痛みねんざ外来」を始めました。

自分自身は中学・高校・大学と競技レベルでスポーツを行い、現在もマラソン・ラグビーをプレーする自称アスリートですが、ケガに悩まされた期間が長く、ようついぶんりしょう ひこつ腰椎分離症、しゅしこつしょうがい腓骨の疲労骨折、種子骨障害、大腿四頭筋肉離れなどなどを受傷しました。選手生活の多くはグラウンドの端っこでリハビリをしながら、他の部員たちの練習を眺めているというものでした。

現在も肘関節のネズミ(ベンチプレスをするとう痛くなります)、ハムストリングス肉離れ(長い時間運転しているとお尻が痛くなります)、繰り返す捻挫である足関節不安定症(デコボコした道で走るとすぐ捻挫します)、足底腱膜症(走り過ぎると足の裏が痛くなります)と付き合いながらスポーツを楽しんでいます。このようなバックグラウンドがあったので、医師になりスポーツ医学に進んだのは自然な流れでした。

自身がラグビーをやってきたので、医師になって研修医を終えると、ラグビーチームにチームドクターとして携わりました。平日は病院やクリニックで働き、週末はチームドクターでスポーツ現場に行くという生活でした。「スポーツ現場でも病院やクリニックのような医療を選手に提供したい」と思っていた私は、エコーを使うようになりました。エコーは、ラグビーのグラウンドを含めどこへでも持っていくことができ、そこで正確な診断・治療を可能にして、ケガをした選手を安心させることができます。そのようなエコーに私はどっぷりハマりました。エコーには妊婦さんや新生児にも安心して使える安全性がありますし、CTやMRIのように放射線を浴びたり、長い撮影時間が不要です。スポーツ医学科主任部長の大内洋先生がすでに運動器エコーの第一人者として亀田におり、エコーは最新の機種が自由に使える環境にあったので、毎日診察後に自分で自分にエコーをあてながら勉強しました。

スポーツドクターとして現場にでる一方で、整形外科医として手術も大好きでしたので「エコーを使うことで、手術をより精度が高く安全なものにできるのではないか?」という課題が浮かび上がってきました。2014年頃から学会や研修会でエコーを使用した手術(エコーガイド下手術)について、大内先生やスポーツ医学科部長代理の山田慎先生とともに発表し始めました。そこで発表してきた手術の一つに足首の繰り返す捻挫に対する手術があります。ピッツバーグでスポーツドクターとして働いている先生の目にこの手術が留まり(自分も売り込みましたが…)「この手術をピッツバーグでもっと開発しよう」という話になりました。そして経営陣にもご快諾をいただき、ピッツバーグ行きが決まりました。当初は2019年の夏から1年間の予定でしたが、ラグビーワールドカップ日本大会でドクターを務めることとなり、ワールドカップ決勝でもドクターを務めました。ワールドカップが終了した翌々日の11月5日から家族とともにピッツバーグに滞在し、2020年10月から亀田に復職し「足の痛みねんざ外来」を立ち上げました。

次回からのコラムでは、「足の痛みねんざ外来」の治療内容をピッツバーグでの留学生活を交えて説明していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 医師紹介

せき 関 ひろたか 裕 誉 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①消化器外科
- ②外科
- ③写真、野球
- ④謙虚に精一杯診療させていただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします

